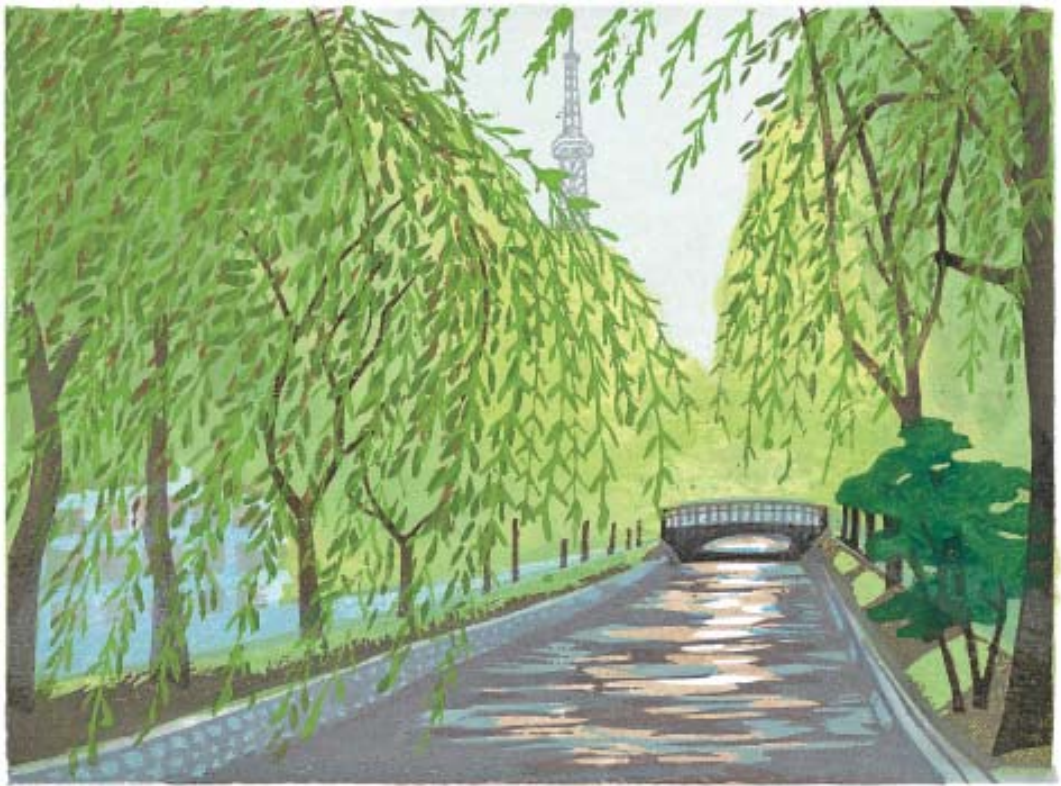


(財)札幌市環境事業公社 情報誌 創刊号

アンパス

un pas

フランス語で「一歩」の造語。一歩一歩お客様との絆を深め、
ともに環境への理解を深めるという意味を込めました。



『創成川』 小出 匡 作

ごみの適正な処理・リサイクル推進への取り組み

近年、環境問題への関心や要求はさらに高まり、事業系一般廃棄物（事業系ごみ）の収集運搬に関わる札幌市環境事業公社の役割はいつそう重要になっていきます。今年で十年目を迎えた事業系ごみの収集運搬事業を中心に公社の取り組みをご紹介します。

公社の事業

平成2年4月の設立以来公社は、

- ① 調査啓発事業
 - ② 資源化事業
 - ③ 事業系ごみ収集運搬事業
- を3つの柱として、事業の展開をしています。具体的には、
- 廃棄物の有効利用等の調査・研究
 - ごみ資源化センター、大型ご

み収集センターの管理運営など札幌市からの委託事業
 ○ 「びん・缶・ペットボトル」の選別施設の管理運営、事業系ごみの収集運搬・リサイクルなど公社独自の事業
 を行っており、札幌市のごみの適正処理・リサイクルの担い手として重要な役割を果たしています。

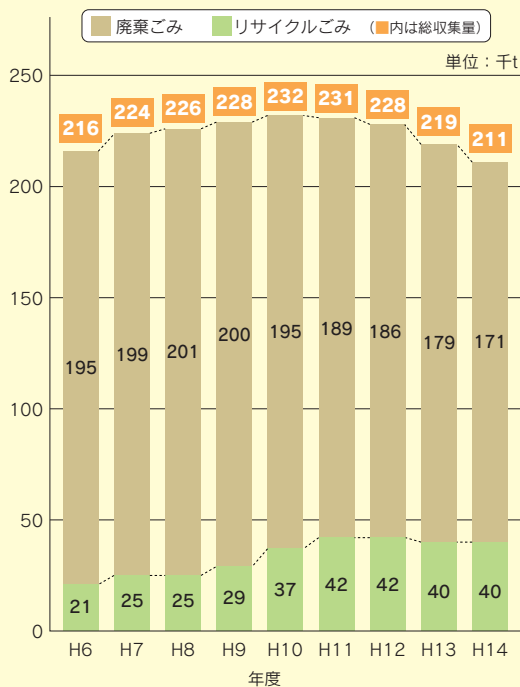
公社が収集している事業系ごみの現状

平成14年度に公社が収集した事業系ごみ及び再生可能品の総収集量は、約21万1千トンにのぼり、清掃工場等で処理した量が約17万1千トン、リサイクルされた量が約4万トンとなっています。




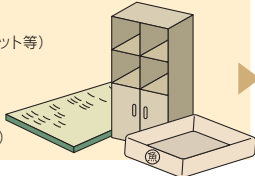
ごみ収集運搬実績のグラフを見ると、清掃工場等で焼却処理等された廃棄ごみ量は平成8年度をピークに毎年減少していることがわかります。平成14年度と比較すると約



15%ものごみが減少していることがわかります。一方、リサイクルされたごみ量の増加は平成11年度までで、その後、ほぼ横ばいになっています。これは、公社で収集しているリサイクルごみのうち、一部の紙ごみやびん・缶・ペットボトルが民間の再生業者に移行したためで、リサイクルが進んでいないわけではありません。すべてを合わせるとリサイクル量は着実に増えています。

公社ごみ収集運搬実績の推移



● 公事で収集している事業系ごみ

一般廃棄物		
種類	内容(品目事例)	処理施設
一般ごみ	<ul style="list-style-type: none"> ● 生ごみ類 (骨肉・野菜くず・残飯・たばこの吸殻・茶殻等) ● 布類 (付着物のないウエス等) ● 食品廃棄物 (小売・卸売店・倉庫等からでる食品等の可燃物) ※マヨネーズ・マーガリン等の油性のものは除く 	札幌市清掃工場 (焼却処理)
	<ul style="list-style-type: none"> ● 草木等 (乾燥していない草・木の根株) ● 燃えがら (一般廃棄物の焼却灰) 	札幌市埋立地 (埋立処理)
生ごみ	<ul style="list-style-type: none"> ● 夾雑物を取り除いた生ごみ (骨肉・野菜くず・残飯等) 	札幌生ごみリサイクルセンター (飼料・肥料化)
資源化ごみ	<ul style="list-style-type: none"> ● 紙くず類 (ちり紙・カーボン紙・その他再生できない紙類) ● 以下のものは紙くず類に少量混入可 ● 木くず (割り箸・つまようじ等) ● プラスチック類 (ビニールくず・軟質プラスチック) ※硬質の物・塩ビ等は除く 	札幌市ごみ資源化工場 (図形燃料化)
	粗大ごみ	<ul style="list-style-type: none"> ● 廃木材 (魚箱・パレット等) ● 木製品 (戸棚等) ● 畳 (わら製のみ) 

再生可能品		
種類	内容(品目事例)	処理施設
食用缶	<ul style="list-style-type: none"> ● 18 までの食用缶 ● 菓子缶・海苔缶・缶詰めの缶・一斗缶等 ※水洗い等をして中身をきれいにしてください。 	金属商
	飲料缶	<ul style="list-style-type: none"> ● ジュース・ビール等の飲料缶 (アルミ・スチール) ● ジュース・酒・コーヒー・酢等の飲料・食用びん類 ● ペットマークが付いたジュース・醤油・みりん等の飲料・食用ペットボトル ※中身が空であること(汚れのひどいものは水洗いをしてください) ※ビールびん・一升びん等のリターンびんはできるだけ販売店に戻すようにしてください。 

※分別することにより、専用車で収集し、収集曜日が異なります。
 ※各ごみ処理施設により受入基準が異なります。
 ※上記以外の廃棄物については、産業廃棄物になりますので産業廃棄物収集運搬業者にご依頼ください。

分別を開始する前に必ず
 当会社 219-5353 までお問い合わせ下さい。

札幌市の **ごみ** 対策

札幌市は人口 186 万人を越す日本有数の大都市に成長すると同時に、私たちを取り巻く経済社会や生活様式の変化にともなって、ごみの量も増加し、ピークの平成 3 年には 118 万トンに達しました。「ごみ」の問題は埋立地の確保やダイオキシンなどの地域的な問題だけではなく、温暖化など地球規模の問題でもあります。そのため、資源保護・環境保全も視野に入れた、ごみ排出の抑制や再資源化など、循環型社会の構築が求められています。

こうした状況の中で札幌市は、ごみの総

排出量の 6 割近くを占める事業系ごみに関して、いち早く対策を講じ、その減量・リサイクルを推進するため、ごみ資源化工場を稼動(平成 2 年)、事業系一般廃棄物の収集を札幌市環境事業公社へ一元化(平成 6 年)したほか、平成 10 年にはエコタウン計画に基づいてリサイクル団地の整備を行い、積極的な対応をしています。また、平成 12 年 3 月には、ごみの抑制と環境への負荷の少ない都市づくりを目指して「さっぽろごみプラン 21」をつくり、数値目標(平成 26 年度までに平成 10 年度の 15% 以上の減量)を設定して、ごみの減量・リサイクルへの取り組みを進めています。

公社の取り組み

公社が事業系ごみを収集するようになって、今年で10年目を迎えました。この間、収集体制の効率化を図り、ごみの適正処理、減量、リサイクルなどの問題に取り組んできました。

現在、205台（予備の車両を含む）ある公社の収集車両は、札幌市内全域約3万5千事業所のごみを収集し、札幌市の清掃工場等の処理施設または



ごみ収集車

民間のリサイクル施設に搬入しています。

公社ではごみ収集運搬に関して、全国的に見ても先駆的な次のような取り組みを実施しています。

● プリペイド袋方式の収集

平成6年の条例改正に伴い、従来は家庭ごみと同じごみステーションに出されていた2万件にも及ぶ少量排出事業所の個別収集を行っています。少量排出事業所専用により、料金支払等の手間を省くためプリペイド袋方式によるごみ収集を行っています。



プリペイド袋

● 「資源化ごみ」の分別収集

一般ごみに多く含まれる紙などの「資源化ごみ」の分別収集を推進しています。収集した「資源化ごみ」を原料にRDF（固形燃料）を生産するごみ資源化工場は、全国的にも大規模なごみの燃料化施設です。生産されたRDFは札幌市内で地域暖房の燃料になります。



資源化ごみから生産されたRDF

● 「びん・缶・ペットボトル」の分別収集

「びん・缶・ペットボトル」の混合による分別収集を行っています。集められた

「びん・缶・ペットボトル」は市内2カ所にある国内最大級の処理能力を持つ資源選別センターで選別処理されています。



びん・缶・ペットボトルの分別作業

● すすきの早期収集

ガラスなどの被害を防止するため「すすきの地区」の早期収集を平成6年4月より実施しています。早期収集によって、以前に比べガラス被害は減少しました。

●「生ごみ」の分別収集

排出時に夾雑物が取り除かれた「生ごみ」の分別収集を行っています。公社が収集した「生ごみ」を原料として札幌生ごみリサイクルセンターでは飼料・肥料を生産しています。

生ごみから生産された飼料・肥料



創刊号では公社の取り組みの概要をご紹介しましたが、次号からは、みなさまが出たごみを処理する施設やリサイクルのしくみなどをくわしくご紹介していきます。

ごみの 収集運搬の 経緯

札幌市はごみ量増大の元凶ともされていた事業系ごみの減量・リサイクルを進めるため、それまで事業系一般廃棄物の収集運搬を行っていた市内7業者の許可を一旦取り消し、札幌市環境事業公社1社に一元化しました。公社の指示のもとに、収集運搬を行う代行者として、一定地区を各業者が分担する形となりました。それまで同一地域に複数の業者が入っていた収集ルートを大幅に単純化することによって、時間・経費等が削減されました。その分、各種の分別収集やリサイクルにも力を入れることができ、全国的にも稀な成果を挙げることができたのです。

現在、事業系ごみでリサイクルしている量は年間約4万トン、1日あたり110トンにのぼり、総収集量に対するリサイクル率は約19%となります。他都市のデータの詳細は公表されておりませんが、札幌市の家庭系ごみの約10%以下に比べると相当高いレベルにあると言えます。みなさまのご協力が必要な分別収集に関しては、リサイクルされる「資源化ごみ」「生ごみ」「びん・缶・ペットボトル」のごみ料金を「一般ごみ」より安くして経済的インセンティブ（動機・誘因）が働くシステムをとっています。

これまでは、みなさまのご協力もあって、公社の設立目的・理念である「ごみの適正処理とリサイクルの推進」の役目を果たしてこられました。今後は、地域ひいては地球環境の保全、循環型社会の形成という社会的役割に一層の努力をすることはもちろん、サービス業としての側面を持つごみ収集業を受け持つ一企業として、顧客サービスの向上を徹底し、みなさまから「安心」と「信頼」を得られるよう努めていきたいと考えています。

最新の処理施設を訪ねて

江別市
環境クリーン
センター

廃棄物に関する情勢は、ダイオキシンによる環境汚染や埋立地の問題、そして、法体系の整備や処理技術の面で著しい進歩があります。そこで、道内外の先進事例を紹介し、今後の環境にやさしいごみ処理について考えて見たいと思います。今回は、江別市に導入された「次世代型ごみ処理技術」の中核を担うものとして注目されているガス化溶融炉を紹介いたします。

ガス化溶融炉は、従来の焼却炉と比較すると①高温で処理するため、ダイオキシンなどの生成が抑制される。②灰分が溶融スラグ化され、土木資材として利用できる。などの長所から、全国的に採用され、道内では、渡島、西胆振廃棄物処理広域連合など4カ所に導入されております。しかし、短所として①熱量確保のためプラスチックや紙などが必要。②新技術で発展途上のためトラブルが多い。などが上げられます。



江別市の誇る最新式ごみ処理施設「江別市環境クリーンセンター」。江別市はこの施設に総額72億円をかけ、平成12年9月から平成14年11月までのわずか2年数カ月で完成させました。

センターの正面の壁面に、愛称である「くるりん」のシンボル”くるちゃん”と”りんちゃん”が画かれたクリーンな建物は、石狩川沿いの広々とした草原と調和がとれています。すぐ隣には最終処分場があり、ここからは一切ごみを持ち出すことがないようになっていました。

江別市環境クリーンセンターは、江別市内の全てのごみ処理（資源物を除く）を受け持つ重要な施設で、平成15年度は42,120tを処理する予定となっています。取材当日も110tを処理するために稼働率80%で、順調に運転していました。

処理方法ですが、まず、ごみを長さ20mの熱分解ドラムへ送り込み、ごみを空気

ない状態で、多数の加熱管を使って450℃の熱と約1時間回転を加えて蒸し焼きにし、熱分解ガスとカーボンに生成します。次に、燃焼溶融炉で熱分解ガスとカーボンを熱源として約1,300℃で燃焼し、灰分を溶融してスラグが生成されます。生成されたスラグはアスファルト舗装などに利用されています。また、ここで発生する熱は1,980kwの発電、施設内外の余熱として利用され、エネルギーを有効活用する施設となりました。



熱分解ドラム



流れ落ちる
溶融スラグ

環境面でも、除塵用と脱塩用のろ過式集じん器などが設備されているほか、ダイオキシン対策も万全の設備がされ、排ガスのデータは正門の電光掲示板に表示されていました。

センター長のお話では、最新の技術でもあり、初期トラブルの対応、安全・安定運転には大変なご苦労をなさったようですが、この施設は環境安全性と効率性に優れた最新のごみ処理施設として注目されています。



今回は、大切なものを「ごみの中から発掘」する“お宝探偵団”のお話です。

ある日、〇〇会社の清掃担当のAさんから、

「大事な書類をごみと勘違いして捨ててしまいました。どうしても必要な書類なので、探したいのですが…」

と電話がありました。かなり切迫した様子でしたから、これは捨てておけません。さっそく“お宝探偵団”出動です。

まず、事情を聞いた団長は、〇〇会社の収集をした収集車が清掃工場に入っていないかを確認します。日に600トン以上もごみが運び込まれるピットに、収集車のごみがあけられた後では、探し出すことができないからです。確認が取れるまで、団長の心は焦ります。しかし、今回は運良くまだ収集車のごみをピットにあけていないことがわかり、団長もほっと胸をなでおろします。

清掃工場の入口で、Aさん・収集車・探偵団が待ち合わせ、いざ現場へ！

収集車1台、約4トンのごみの中からですから、砂浜で10円玉を探しだすようなもの。搜索は“発掘”といった表現

がピッタリです。さらに、臭い汚物なども混じっている状態です。

一同、覚悟を決めて“発掘調査”を開始します。

Aさんは、
「茶色で古い大きめの封筒に入っていたものを、事務所のごみと一緒にごみ袋に入れました。」

と、捨てた時の状況をはっきりと覚えていました。一同、大きめの茶封筒の入ったごみ袋を、収集車の運転手・助手さんの「〇〇会社さんのごみはこの辺りだよ」の言葉を頼りに、探し始めます。清掃工場の方の助けを借りて、ごみを掘り返し始めて1時間30分が経過し、探偵団に焦りの色が見え始めたその時！

「ありましたあ〜！」

満面の笑顔で「よかった、よかった」と誰もが言いながら後片付けを済ませます。Aさんは、見つかった書類を大事に抱え喜んで帰られました。

お宝搜索には、このように「間違いなく捨てました。状況は〇〇です」と確実な情報が大切です。情報さえ確実なら見つかる可能性は高いのですが、「捨てたと思います。状況は〇〇だと思います」という曖昧な場合には、残念ですが、見つかる可能性は低いと言わざるを得ません。

なによりも、誤って“お宝”を捨てることのないよう十分注意してくださいね。

お宝探偵団団長

創刊に当たってのご挨拶

このたび、札幌市環境事業
公社情報誌「unpas」を発
刊するに当たって、一言ご挨
拶を申し上げます。

当公社は『札幌市における
廃棄物の適正な処理を維持す
ることにより、より一層市民
の快適な環境の確保を図り、
もって公共の福祉の増進に寄
与する』ことを目的に、ごみ
資源化工場の管理運営を始め
として平成2年に設立されま
した。その後、平成6年から
は、札幌市唯一の事業系一般
廃棄物の許可業者として、ビ
ルなどから排出される一般廃
棄物等の収集運搬、さらに、
平成10年には2カ所の資源選
別センターを建設するなど、
収集運搬から中間処理・処分
まで体系的に廃棄物の処理を
行うことで、その適正処理お

よびリサイクルの担い手とし
て札幌市における廃棄物処理
行政の中で重要な役割を果た
しております。

情報誌「unpas」発刊の
目的は、お客様に当公社の事
業内容等について積極的に発
信するとともに、環境・廃棄
物問題や先進都市の情報を提
供すること、より公社事業
を理解していただくと同時に、
情報を共有することによって、
より質の高い事業等を展開す
ることの一助となることを期
待するものです。

この情報誌のタイトル「u
n p a s」はフランス語で
「二歩」という意味で、その名
の通り、お客様と当公社との
間の「掛け橋」の役割を「一
歩・一歩」果たすことで、「信
頼」の礎になるという希望を

込めて名づけたものです。

「unpas」を通じて、私
どもの役割、成果等を正しく
知っていただくと同時に、皆
様のご意見をお寄せいただき、
より良いサービスを提供でき
る仕組みを築いていきたいと
考えております。今後とも地
域及び地球の環境保全の担い
手としての強い自覚を持ち、
お客様との協力・連携を更に
深めながら、お客様に信頼さ
れ、満足していただけるサー
ビスを提供していく所存です。
この情報誌がお客様と当公
社との効果的な双方向のコミ
ュニケーション手段となるこ
とを念願して止みません。
近々、開設される予定のホー
ムページと併せて「unpas」
をお読みいただき、今後とも
当公社にご支援を賜りますよ
うお願い申し上げます。情
報誌発刊のご挨拶といたします。

財団法人 札幌市環境事業公社

理事長 川瀬 洋三

平成 15 年 10 月発行

編集・発行／札幌市中央区北1条東1丁目 サン経成ビル
財団法人札幌市環境事業公社

- 本誌に関するご意見、ご要望等
電話 219-2053 FAX 219-0882
- 事業系一般廃棄物の収集全般に関すること
電話 219-5353 FAX 219-0053